

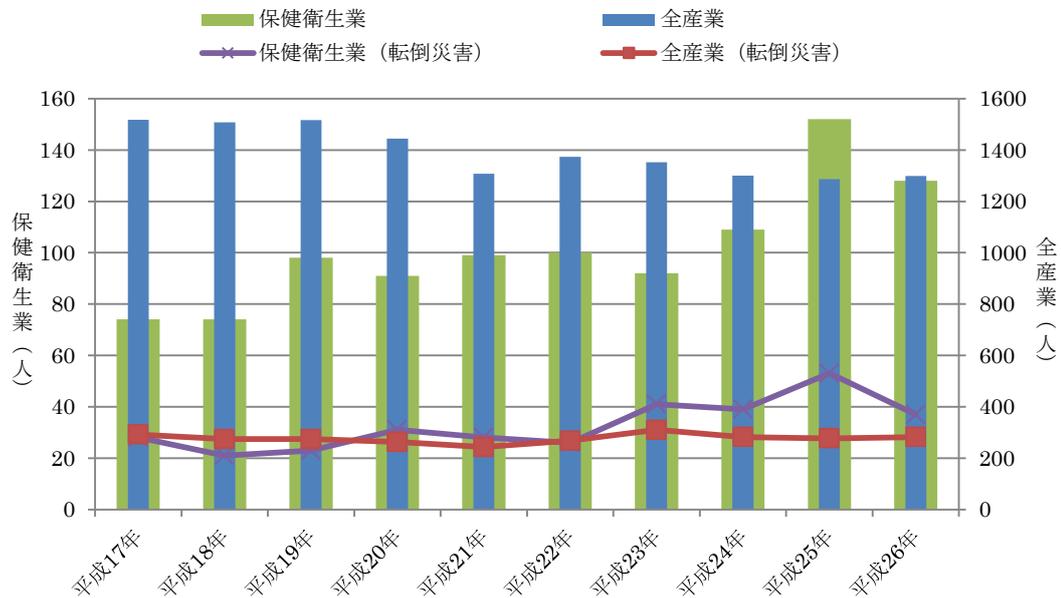
保健衛生業における転倒災害の発生状況

● 保健衛生業における年別転倒災害の発生状況

宮崎県内の休業4日以上の労働災害（平成17年～平成26年）の発生状況をみると、全体的には減少傾向にあるが、転倒災害は横ばい状況にある。

しかしながら、保健衛生業では労働災害は増加傾向にあり、転倒災害も増加傾向にある。

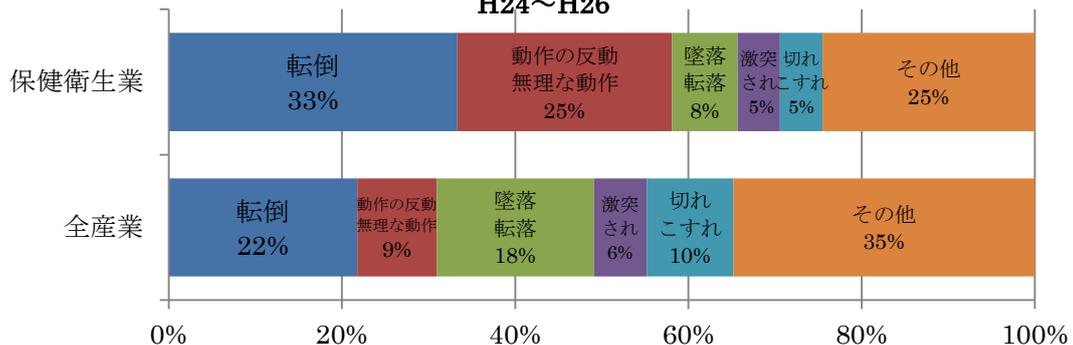
保健衛生業と全産業の被災者の推移
休業4日以上の労働災害



● 保健衛生業における転倒災害の割合

宮崎県内の平成24年から平成26年の労働災害について事故の型別で見ると、保健衛生業においては、「転倒」、「動作の反動、無理な動作」の割合が高く、この二つで58%を占めている。

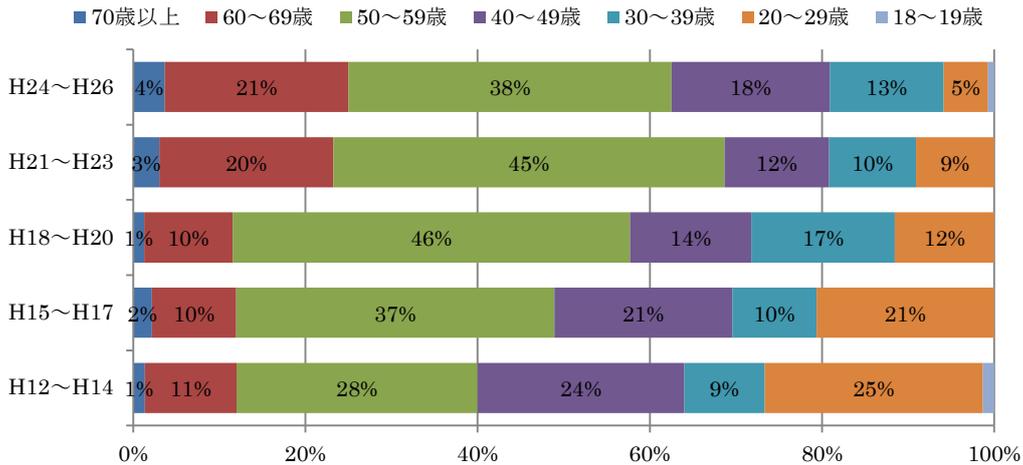
保健衛生業と全産業における事故の型別被災者の割合
H24～H26



● 保健衛生業の転倒災害における年齢別割合の推移

保健衛生業の転倒災害について年齢別割合をみると、50歳以上の割合が増加しており、特に60歳以上が大幅に増加している。
 なお、40歳代の割合は減少している。

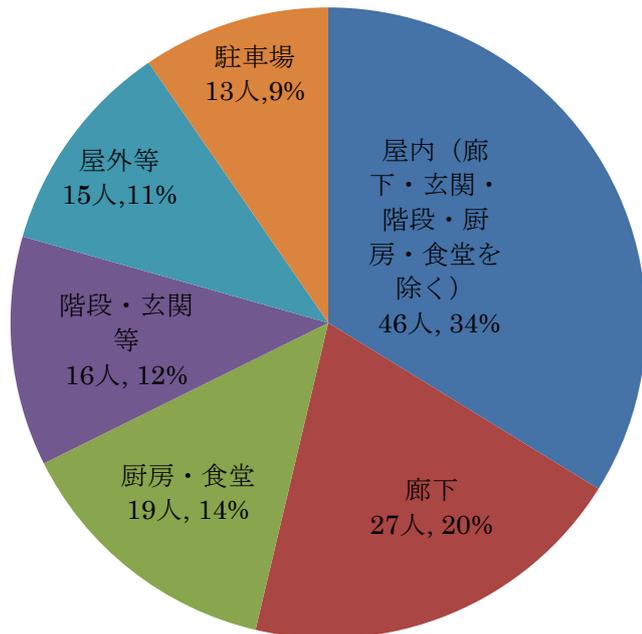
保健衛生業の転倒災害における年齢別被災者数の推移
 休業4日以上労働災害



● 保健衛生業における発生場所別の転倒災害の割合

保健衛生業における転倒災害について、災害の発生場所別にみると、屋内（廊下・玄関・階段・厨房・食堂を除く）34%、廊下20%、厨房・食堂14%、階段・玄関等12%となっており、屋内での災害が80%を占めている。

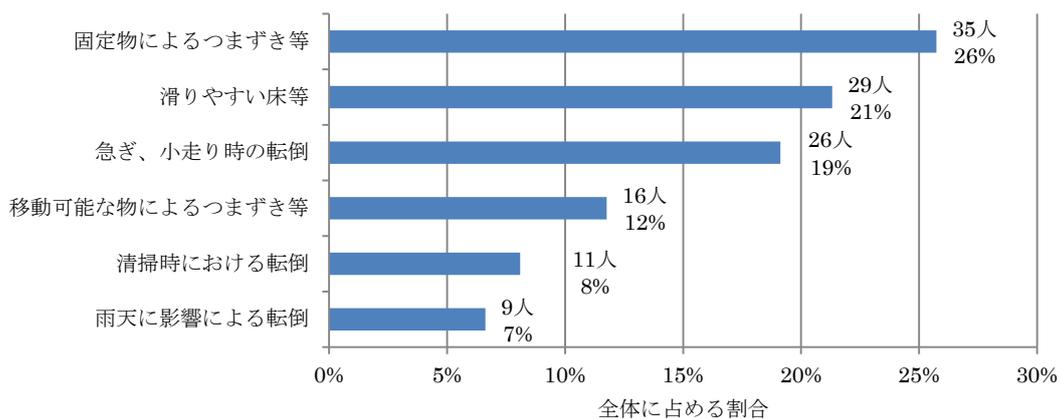
発生場所別 転倒災害の発生状況
 保健衛生業 (H24～H26)



● 保健衛生業における転倒災害

保健衛生業における転倒災害については、段差、階段、車止め等の「固定物によるつまずき等」が26%、水濡れ等による「滑りやすい床等」が21%、「急ぎ、小走り時の転倒」が19%等となっている。

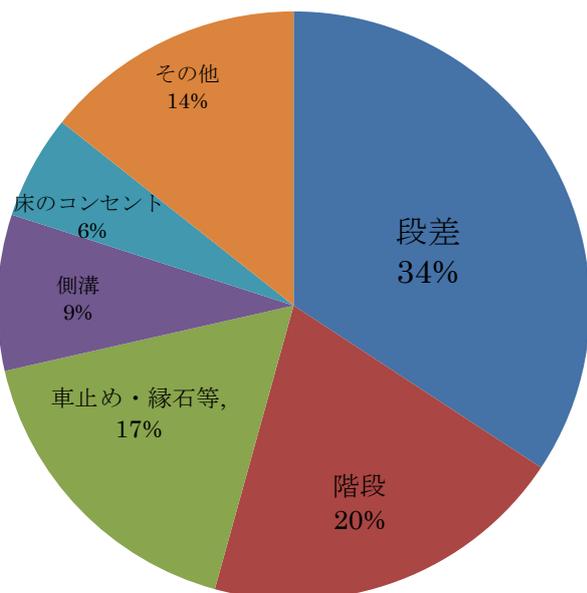
転倒災害の発生状況
保健衛生業（H24～H26）



● 「固定物によるつまずき等」に係る転倒災害

固定物によるつまずき等に係る転倒災害
保健衛生業（H24～H26）

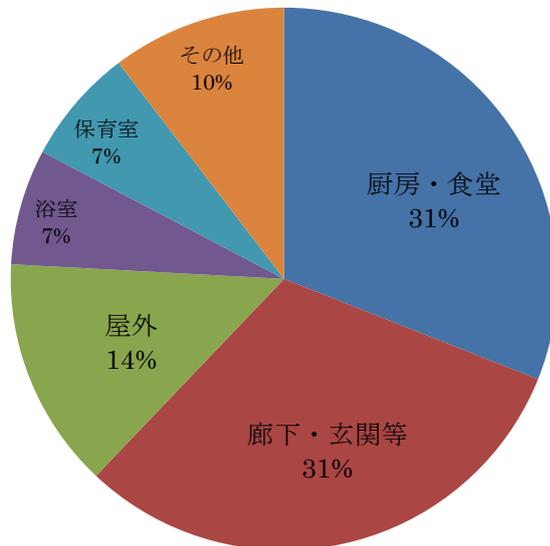
「固定物によるつまずき等」に係る転倒災害は、保健衛生業の転倒災害の26%を占めているが、その起因物としては、「段差」が34%、「階段」が20%、「車止め・縁石等」が17%等となっている。



● 「滑りやすい床面等」に係る転倒災害

滑りやすい床面等に係る転倒災害
保健衛生業（H24～H26）

「滑りやすい床面等」に係る転倒災害は、保健衛生業の転倒災害の21%を占めているが、発生場所を見ると、「厨房・食堂」及び「廊下・玄関等」が31%、「屋外」が14%等となっている。



● 保健衛生業における年齢別転倒災害の割合

保健衛生業の平成24年から平成26年の年齢別の被災者の割合をみると、転倒を除く災害については、50歳代が31%、40歳代が21%、30歳代が16%、60歳代が15%となっているが、転倒災害については、50歳代が38%、60歳代が21%、40歳代が18%となっており、50歳以上の割合が高く63%を占めている。

転倒災害と転倒以外の災害の年齢別被災者の割合
保健衛生業（H24～H26）

